

中棟2Fのトイレの前。「改修前はトイレを我慢して腹痛を訴える子もいましたが、新しいトイレになってからは減りました」とは養護教諭の内橋佳奈子さん。



学校トイレ事例

03

[改修]

兵庫県西脇市 西脇市立西脇小学校

**築80年以上の木造校舎の保存改修
魂を込めるのは実際に使う子どもたち**

全フロアのトイレ設置と 一部男子トイレ全個室化

西脇市は古くから播州織の産地として栄えてきました。その黄金時代の昭和10年前後に建てられたのが、西脇市立西脇小学校の北棟・中棟・南棟、計3棟の木造校舎です。豊かさの象徴として高価な建材がふんだんに使われ、デザインも当時の最先端。80年以上経った今も往時の姿を留め、大切に使われてきたことが伺えます。

しかし、耐震性不足により一時は取り壊しが決定。「紆余曲折を経て保存改修への道が開かれました」と市教育委員会の森脇達也さん。そして、神戸大学大学院名誉教授の足立裕司さん監修のもと「建設当初の原状の意匠を保存・継承しつつ、文化財としての価値を失うことなく、校舎の耐震補強やバリアフリー化を実施して、安全な学習環境を整備する」というコンセプトで改修が行われました。

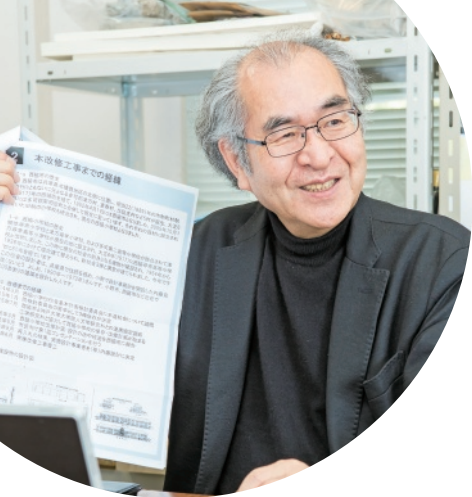
西脇市内の全8校の小学校は、西脇小を除き、2015年に洋式化への改修が済んでいました。「学校のトイレは家と同じに」という考えから温水洗浄便座を標準で設置しています」と市建設水道部の橋本将さん。また、衛生面からも、手洗いは非接触の自動水栓です。西脇小のトイレもこれに準じています。

改修前の西脇小は、南棟1階の東側と、北棟と中棟の渡り廊下西側にある計2カ所の別棟トイレのみでした。そのため、トイレ作りのメインコンセプトは、「3棟とも各階に一つトイレを作る」としました。

「木造校舎のトイレ作りで懸念されるのはオーバーフロー（水漏れ）で、2階のトイレ作りは敬遠されがち。しかし乾式床材や便器などの性能が上がり、今回実現できました」（足立教授）

西脇小のトイレ作りにはほかに大きな特徴が二つあります。

一つは、建物の意匠を壊さないよう、トイレに前室を設けて、そこに筆や手を洗う流しを納めていることです。水の飛び散りによる廊下の汚れも防ぐことができます。もう一つは、男子



神戸大学大学院名誉教授の足立裕司さん。文化財としての木造校舎保存改修を成功に導いた。



南棟1F東側の男子トイレ。安心して大便ができるよう小便器をなくして個室化。奥のベンチは、改修前は基礎だった部分を利用して設置。

西脇小学校木造校舎保存改修工事実施の背景と経緯

1934～36年(昭和9～11年)	3棟の木造校舎竣工
2008年(平成20年)3月	県の景観形成重要建造物に指定される
2013年(平成25年)7月	データ上耐震性が低いことから取り壊し、コンクリートの校舎を建てること決定 市民より「改修し保存」の声
2014年(平成26年)3月	学識者、市民の代表らで構成の「西脇市立西脇小学校基本計画検討委員会」を立ち上げ、検討
2015年(平成27年)1月	検討委員会から「保存改修を行い校舎として利用すべき」との答申。保存改修工事実施へ
2015年(平成27年)7月	市は神戸大学大学院人文学研究科に校舎改修基本計画・基本設計を依頼 大学側は、「西脇小学校基本計画・基本設計受託研究チーム [※] 」を結成し、調査、研究を実施
2017年(平成29年)3月	設計を終え、8月工事着工
2019年(令和元年)8月	保存改修工事完了予定

※西脇小学校基本計画・設計受託研究チームは、神戸大学と内藤設計を中心に、腰原幹雄教授(東京大学)ら14名の参加を得て構成された。



低学年のトイレ清掃は高学年が担当。



「子どもたちが掃除しやすいよう各トイレに清掃用具を置きたい」という要望をかなえるため、省スペースで済む壁掛け式の清掃用具掛けパネルを採用。



南棟1F東側の女子トイレ。便座は「家と同じ」を基準に、すべて温水洗浄便座に。



中棟1Fに設置した多機能トイレ。更衣室につながる前室があり、落ち着いて利用できる。

改修が完了した中棟や南棟のトイレの使用が可能になった日、子どもたちは我先にとトイレに駆け寄り、「誰が一番に使うか」を競ったそうです。

「雰囲気は昔のままの校舎ですが、中に入るとトイレを含めすべて新しく、子どもたちは喜んでいます。校舎を誇りに思う気持ちも強まったのではないのでしょうか」と白川智喜校長。

足立教授は、「出来上がった建物に魂を込めるのは実際に使う子どもたちや先生」と言います。

西脇小の校舎に魂が込められて大切にされ、さらに後世へ引き継がれることを、保存改修に携わった人たちははじめ、多くの西脇市民が願っているのです。

子どもたちが競って新しいトイレへ

用トイレ1カ所で小便器をなくし、個室だけにしたことです。

「男子が個室に入ると大便だと思われてしまう。だから小便器をなくしたという当社設計事例を踏まえて、今回提案させてもらいました」(内藤設計 森本恭行さん)。そのトイレは昇降口のすぐ近く。移動の際にさりげなく入ることができません。



各棟の2Fは渡り廊下でつながっている。エレベーターは中棟のみの設置だが、渡り廊下があることで、車いす使用の場合も校舎の間々まで移動できる。新規の2F渡り廊下の設計は遠藤秀平教授、槻橋修、福岡孝則准教授らにより外構計画などの検討がなされた。



教室の窓は防寒、防音のため二重に。カーテンは地場産業の播州織。



南棟2Fトイレ。排泄音への配慮から、女子トイレと男子トイレの間の壁の中にガラスウールを二重にして入れている。

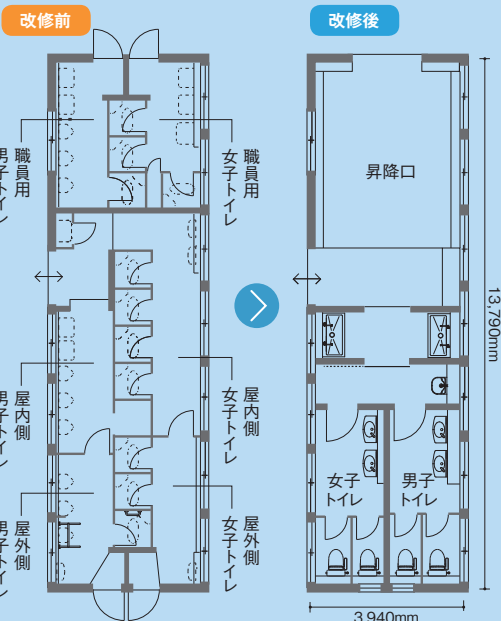
西脇小学校 DATA

- 名称：西脇市立西脇小学校
- 所在地：兵庫県西脇市西脇656-1
- 児童数：386名(2019年4月)
- 施工主：西脇市
- 設計・監理：内藤設計
- 施工：吉住工務店
- 竣工年月：2018年3月(南棟)、10月(中棟)



南棟中央にある玄関。過去の改修によって変更になっていた車寄せの上部などを元々の設計図に従って復原した。

南棟1F東側トイレ



屋外トイレと屋内トイレの併用で、すべて和式便器。

トイレ棟と校舎をフラットにつなげ、職員用トイレ部を昇降口とした。



筆などを洗う流しを前室に納めたことで、廊下はすっきりと往時の姿を留めている。



新しいトイレになり、清掃する子どもたちの顔は笑顔に。



校舎西側にある施工中(取材時)の屋外トイレ。グラウンド利用の際に使用予定。

保健室には汚物流しとシャワーを設置。「低学年がもらしたときに、シャワーで洗い、気持ちよく帰ってもらえる」と養護教諭の内橋さん。シャワー室の床はすべりにくくヒヤッとしない仕様。

棟と棟をつなぐ1Fの渡り廊下は、木造校舎にふさわしい床板でスロープを作り、バリアフリーに。

